



を紙にておほひ寒中より、そろ／＼日向に出し春の暖かにて孵化したら麥粉を砂糖にませ蜜でねり板に塗り土にさしおく、幼蟲は之を喰べ生長する。鳴く蟲の中で一番愛玩さるゝのは石鶏である。石鶏を飼ふには、古い澁氣のない木で一尺四方位の箱を作り、其の中央に岩を置き片端に赤土を入れ水をたへ二三匹入れて置く。上は全體目の細かい金網で覆ふ、秋の末には水を去り（箱に穴をあけしめしむ可し）其の後へ赤土を澤山に入れ、全體を風呂敷につゝみ又は瓶中へ赤土をいれ仕舞ひ置く。赤土の氷らないやうに注意してやる事が大切である。飼は小形の蠅であつて銀蠅は悪し。秋の末には小さき蚯蚓を與へるを可とす。石鶏は秋の末より夏の初めまでは何も食しない。

草雲雀、大和鈴、邯鄲等の如き小蟲には梨子を薄くそぎてやり時々焼鮑を與へるとよく鳴き。閻魔蟋蟀は名詮自稱で中々恐ろしき齒を持つて居ますから餘程丈夫な籠でないと思はれる。

最後に、こほろぎ鈴蟲は五錢位、松蟲六錢位、邯

鄲籠入二十錢、蟬蟲、草雲雀、鈕叩、大和鈴などは籠入十五錢位、石鶏は二十錢位より五十錢位あります。尤も石鶏には非常な逸物もあつて従つてその價も一定してゐない。（丁）

動物園の彩色

記 者

本年二月二日に京都市立の動物園でお産をした兒獅子のうち牡は檻から出てきて鈴鹿技師夫妻の手に座敷のなかで育てられて居ると云ふ事です。

鈴鹿技師は細君と共に此の兒獅子を我が子の如く可愛がりて哺養して居るそうです。毎日精肉三百匁に牛乳一升五合宛一ヶ月約五十七圓の養育料を支出して育て、ゆく甲斐があつて生後百六十日計りで體量十貫目以上になり同園内の豹よりも大きくなりました。始めは兒獅子の御學友として二三匹の犬を召集した處が無邪氣な獅子皇子は他愛もなくころ／＼と轉び合つて喜んで居たが一日と

長ずるに及んで蠻力を揮つて犬の前足を押へつけたりなどするので犬は何時もキャン／＼啼きづめの苦しみを見兼ね鈴鹿夫人からお暇が出たそうです。兒獅子は鈴鹿夫妻には宜く馴れて居ますが見知らぬ人がくると怖しい、權幕で眼を光らします。細君には酷く馴いて一寸でも細君の姿が見えないとウン／＼と啼きながら探して歩くと云ふ事です。兒獅子は夜になると鈴の音を聞いて寝るものとときめてゐるから午後九時に園丁がチリンと鈴を振ると居間に遊んで居た兒獅子は急いで蚊帳の中の箱に這入り穩和しくねんねをして朝は四時頃眼をさまして機嫌よく遊び暮して居る相です。又先々月廿六日の朝に神戸へ入港した常陸丸は新嘉坡からいろ／＼珍らしき動物を大坂の博物館へ持つて来ました。先づ大蛇が三頭で之れは周りが三升樽よりも大きく長さは五十呎、重量は九十八貫目もあると云ふ事です。日本では未だ曾つて是れ程大きな蛇が輸入された事はないそうです。次ぎはクダンと云ふ奴で時々日本でも牛が産んだり人間が産んだりすると云ふ話があります。

誠に珍らしい動物で鹿によく似て居る。頭には小さい綺麗な角があつて、顔は人間に近く四肢の蹄は二つに割れてゐる。此のクダンと云ふ動物は不吉を豫言する動物で自分を飼つて呉れる主人が死ぬるときか又は自分が死ぬる前には必ず鳴くが滅多に鳴かない鳴けば自分が死ぬるのだから要之一生の間一度しか鳴かないと云ふ沈黙な動物です。その他バルガン山猫等も来りしよしバルガンと云ふのは印度のボンベイやカルカッタ方面に澤山居る鳥で大きさは日本の鳥位しかなく風葬した印度人の肉が大好きと云ふ獐猛な鳥です。又東京の上野の動物園には先月上旬二種の珍らしき動物が来りました。其の一つは馬來半島産のホロンヒル雌雄一番ひにて嘴が大きく且つ嘴の端に更に角の如きもの生じ居るより犀鳥とも云つて頗る異様の動物です。他は沖繩縣南大東島に産せし大蟹五疋にて同地方では木登り蟹又は椰子の木蟹と稱し長さ一尺二三寸位にて其内三四寸は尾より腹部にかけ銀の如く曲折し缺は大きく指の長さ八寸位もある由且つ小指の尖端にも缺がありて前後左右に自

由自在に歩行する事が出来色は紫赤色又は煉瓦色にて餘程の年月を閲したる古蟹にて日本にきたのは今度が初めてだそうです。以上は最近新聞紙に見えました面白い動物の二三を挙げました。此の他上野の動物園では鶏が孔雀を解し濠洲産の鶴も丹頂も目下卵を抱いて居るそうですから間もなく可愛らしい雛鶴が生れる事でありませう。

乳媪の選擇 (婦人衛 生雜誌)

母親が自分の乳で其子を育てると云ふのは、これは天の定めたる處で、又實に其義務で有ります、凡て善い事に天然を利用してゆくのは智慧ある人間の務むべき事でありますが、これを悪用し或は自然の法則に反けば、必ず相應の罰を免れません。古來我邦の婦人は、一般に自分の乳を以て小兒を育ててまゐりましたが近來に至りましては、西洋流に格別なる理由もないのに、動物の乳をもつて

育てる様な悪習が這入て參りました。これを人工營養と申しまして、自然營養に對して悪用するものであります、而してその結果の不良なる事は、醫師の明かに認めて居る處であります。一體牛の乳は牛の子を育てるに適當して居ります、人間の子を育てるには不適當なのであります、然るに牛乳で育てた方が却て良いなど、云ふ愚なる事を申す者が間々あります、そのみならず人の體には他から這入つて來る處の毒に對して、其害を防ぎ毒を消す處の働きがあつて、小兒に乳を飲ますれば小兒の身體にもこれが移つて行きます、他の動物の乳や、其他の物を以てする人工營養の小兒に於ては其力が遙かに弱いのであります、これら種々の原因からして、人工營養の自然營養に劣つて居る事が明かでありまして、實際人工營養の小兒が病氣に罹り易く、病氣に罹れば癒り難く自然營養の小兒に比して其の死亡數が非常に多いのであります、それでありますから、決して牛乳などを以て小兒を育てずには是非母親自身の乳を以て育てる様にしなければなりません。然